

利根沼田の女流歌人

生方たつゑ・江口きち・村上順子・石田マツ

生方たつゑ（明治37年～平成12年）三重県宇治山田町（現伊勢市）に生まれる。大正15年に沼田で古くから菓種商を営む生方家に嫁ぐ。旧家の嫁として大家族の世話に追われる中で短歌を志す。温暖な伊勢で育った〈たつゑ〉は、冬の寒さ厳しい沼田の自然に直面する。

江口きち（大正2年～昭和13年）利根郡川場村に生まれる。小学校の学業成績は優秀であった。〈きち〉が本格的に短歌を始めたのは、歌人河井醉茗^{かわい すいめい}が編集発行した雑誌『女性時代』に投稿し始めた昭和6年頃からと言われている。昭和13年に、精神薄弱な兄を道連れに命を断つ。死の直前まで、投稿を続けた〈きち〉にとって、短歌が生きる支えであった。

村上順子（明治39年～昭和60年）吾妻郡高山村尻高に生まれる。大正14年、19歳の時に利根郡月夜野町（現みなかみ町）下津の三重院に嫁ぐ。16歳の頃から作歌はしていたが、本格的に作歌に情熱を燃やしたのは、昭和4年に橋田東声^{はしだ とうせい}の歌誌『霸王樹』^{はおうじゅ}に入会してからと言える。病弱な夫を支え、農作業を一人でこなした。昭和20年に夫〈良円〉亡き後は、子ども8人の一家を支えた。その生活を短歌にし、詠い続けた。

石田マツ（昭和9年～昭和32年）利根郡月夜野町（現みなかみ町）真沢に生まれる。農家の六人子女の長女であったマツは、父が兵役召集されると、母を助け農作業の手伝いや幼い弟妹の世話をして、小学校の通学もままならなかった。昭和30年、21歳の時に雑誌『葦』に20首を投稿すると、歌の選者〈信夫澄子^{しのぶ すみこ}〉の胸を打ち、以後毎月投稿し選者のみならず全国の師友に感銘を与えたが、昭和32年高崎の白衣観音に身守られ自らの命を断った。

関連行事

1/20(土) 講演会「利根沼田の女流歌人～江口きち・村上順子・石田マツ～」

講師 高山 正（沼田市教育委員会教育部長）

2/ 3(土) 短歌朗読とバイオリン演奏「江口きちの世界を音楽にのせて」

朗読 久林純子さん（フリーアナウンサー）

演奏 竹内千尋さん（群馬交響楽団バイオリン奏者）

2/17(土) 歌と講演会Vol.2「生方たつゑと北見志保子」それぞれの思い

前回好評でした「若山牧水」に続く、「須藤さんによる歌と講演会」の第2弾！

講師 須藤 恵さん（声楽家）／演奏 藤井由香さん（ピアニスト）

※各回ともに、午後2時～3時／定員 30名（要予約・先着順）／参加費 無料（ただし観覧料が必要）



【交通のご案内】

バス JR 沼田駅から関越交通バス6分 上之町

JR 沼田駅から関越交通バス6分 東倉内町

車 関越自動車道 沼田 IC から車で約10分

【駐車場】当文庫、天狗プラザ隣をご利用下さい。

【お問い合わせ】〒378-0047 群馬県沼田市上之町199 番地1

TEL&FAX0278-22-3110 生方記念文庫